
嘘つき男と正直女(笑)

囊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘つき男と正直女（笑）

【Nコード】

N8369Y

【作者名】

翼

【あらすじ】

嘘つきな正直女と正直な嘘つき男のはなし。
飽きなかったら続きます。

問1 私が嘘つきなことを証明せよ。 (前書き)

サブタイふざけましたWWW
よかったら見てやってくださいまし！

問1 私が嘘つきなことを証明せよ。

証明)

私を正直だと仮定すると、正直者は嘘をつかないことから、私は嘘をつかない。

一方、私は嘘をつくから、これは矛盾。よって私は嘘つきである。証明終了。

解答者…桐野咲希

嘘をつかない人はいない。どんな聖女や英雄でも。こんな偽りまみれの世界で生きていくには、自らも偽りで塗り固めるしかないのだ。今までそうして生きてきたし、これからもそう生きることになるだろう。

たとえ、誰が何を言おうとも。

「咲希いー、模試のお金忘れちゃったから五千円貸してえー!」後ろで甘ったるい声がした。…また「嘘」だ。模試の料金は千円だし、そもそも今月は模試なんてない。

「ごめんねー給料日前だからお金ないんだー…力になれなくてごめんね!」

お金ならあまり使わないから五千円くらいならあるけど、目には目を、歯には歯を。嘘には嘘を。

そんな感じで嘘をつくことがゲームのようになっていて、むしろ今では本当のことはほとんど言わない。

それなのに私はこのクラスでは「正直者」だと思われているらしい。全く、いい笑い話だ。

たまに自分のしている今の行動をふと他人の目線で見ると、息が苦しくなって、怖くなる。そんな自分がバレるのが怖くてまた嘘を

つく。馬鹿馬鹿しい連鎖に巻き込まれて、もとの世界に戻れなくなった。手を伸ばしても掴んでくれる人なんていないから。またいつものように、自分を偽るために嘘をつく。それが日常。変わる事なんてない。もう、しょうがないよね。

「…気持ちわるいな。偽善者。」

その声にハッとして顔をあげると金髪、ピアス、チョーカーという、目に痛い色の男の後ろ姿があった。

「きもいとかー！ちよーウケるんですけどぉー！しかも言い逃げとかぁー情けなっ！ねっ未菜！」

気持ち悪いしか聞き取れなかったのか、後ろの色欲の塊が下品な声で笑っていた。けど、私はそんなの全く気にならないくらい腹がたっていた。

低能女によると金髪の男は笹井と言うそうだ。

いや、名前なんてどうでもいい。

それより気になることは彼のあだ名が「嘘つき男」であることだった。彼は相当嘘をついているらしい。そんな嘘つき男がわざわざ何でそんなことを言ってきたのか？ただ聞き間違いだったのか？それが分からなかった。どっちにしろなぜ私に口出ししてくるのだ。唇を噛んだとほぼ同時にチャイムがなった。

授業が終わると、彼は携帯のストラップを揺らして遊んでいた。

「…笹井！」

「……何？」

「あのさ、話があるんだけど。」

嫌そうな顔をする彼をぐいと引っ張ると、奴は男の癖に軽く、勢い余って転んでいた。

「…大丈夫？」

「おでこ打った…痛い。」なんだこいつ。おでこって。DKだよな…？

「…っとりあえずこっち来なさい！聞きたいことがあるの！」
クラスの視線が痛かったので、私は急いで教室をあとにした。
この少しの時間で既に分かったこと。

「笹井は、変人だ。」

問1 私が嘘つきなことを証明せよ。 (後書き)

いかがでしょうかーW
多分続きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8369y/>

嘘つき男と正直女(笑)

2011年11月24日22時52分発行